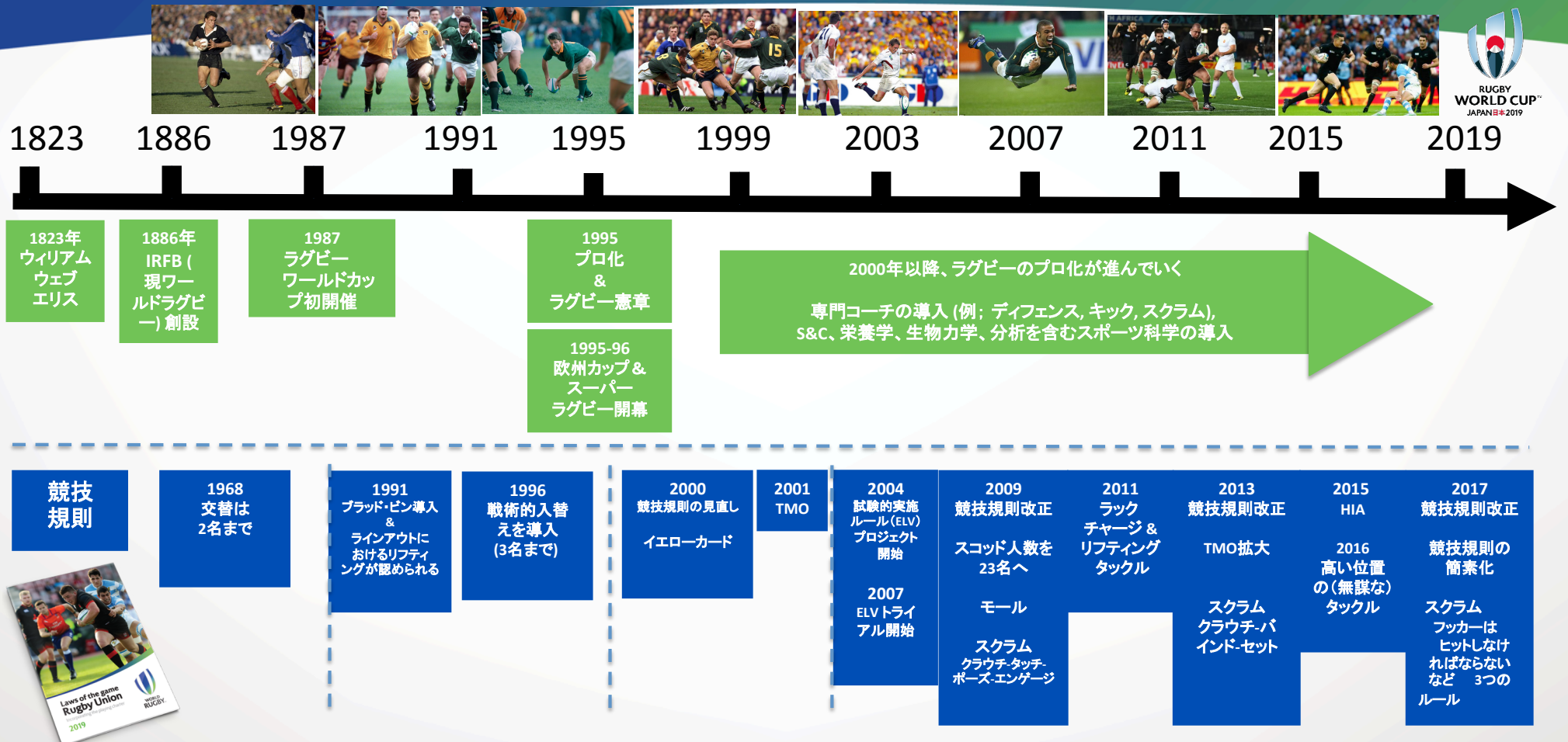




ラグビーのゲーム形態の変化（1987-2018の30年間）

BUILDING CHARACTER SINCE 1886

ラグビー競技の歴史と発展



前書き

この資料は、エリートレベルにおいて、競技の形がどのように変化したのかを説明している。

そのため、このプレゼンテーションに示された試合データは、

過去のラグビーワールドカップの試合と、オーストラリア、イングランド、フランス、アイルランド、ニュージーランド、スコットランド南アフリカ、ウェールズの間で2018年に行われた試合から作成した。

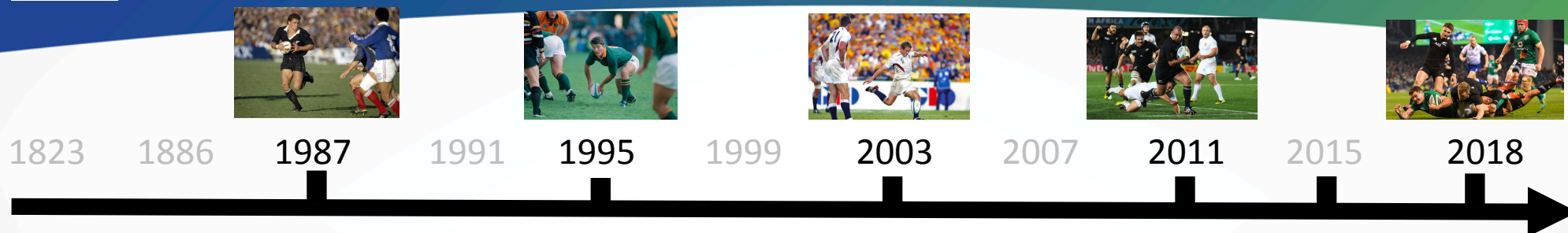




ボールインプレー & 活動サイクル



ボールインプレー& 活動サイクル



ボールインプレイ の割合は増加 (総時間の約 40%)

活動サイクル* は少なくなっているが、平均で3倍の長さになっている(13→36秒)

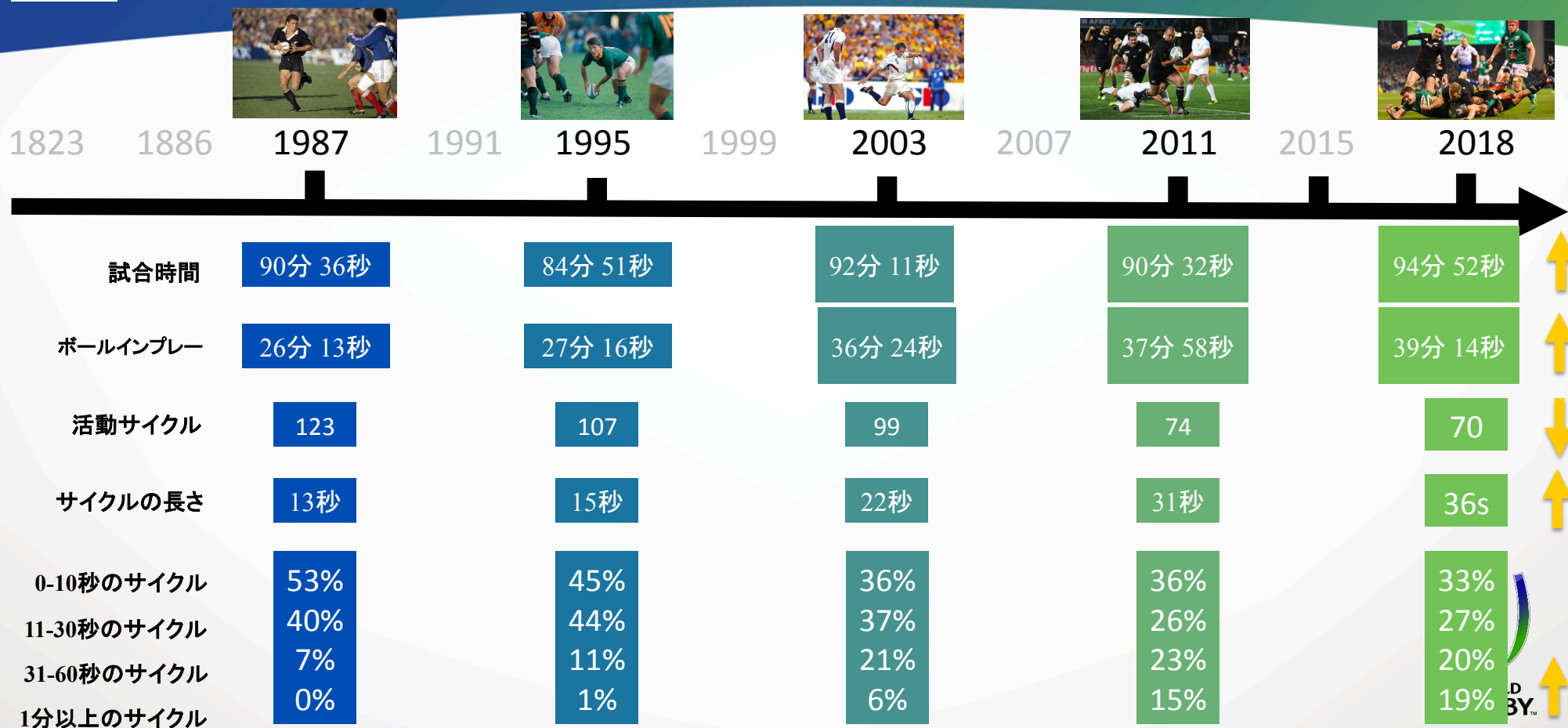
5回に1回の活動サイクル*が、1分を超えている (198年は 0回)

*活動サイクル= ボールがプレーされ始めてから次にプレーが止まるまでの間のこと





ボールインプレー&活動サイクル

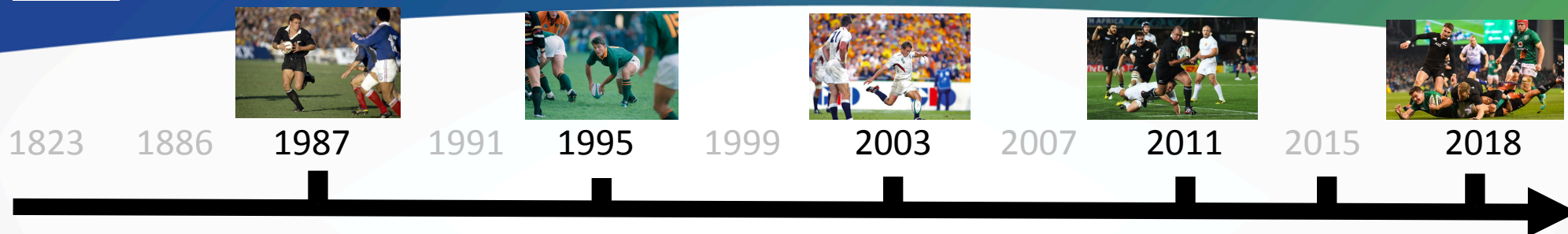




主要なゲーム要素



主要なゲーム要素



ボールの争奪は全体的にセットプレーからオープンプレーにシフトしているため、
現在では、ラックが行われる回数がセットプレーの6倍となっている。

過去のどの時点よりも現在の方が、
各試合で行われるパスおよびラック／モールの回数が増え、
スクラム、ラインアウト、キックの回数が減っている。





主要なゲーム要素



	1823	1886	1987	1991	1995	1999	2003	2007	2011	2015	2018
パス			184		179		281		263		338
ラック/モール			60		91		172		176		211
キック			67		64		58		52		43
スクラム			32		24		21		16		14
ラインアウト			49		38		38		27		24
ラック/モール スクラム/ラインアウト			74%		147%		292%		409%		555%

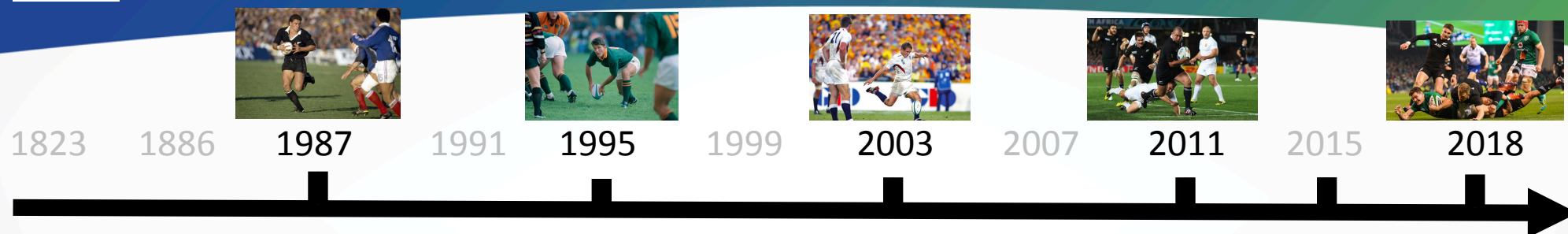




得点



得点



1987年以来、得点に関してはほとんど変化が見られないが、
ペナルティゴールの成功率は上昇した。



得点



	1823	1886	1987	1991	1995	1999	2003	2007	2011	2015	2018
点数			46		48		47		29		44
トライ			5.0		4.0		4.2		2.5		5.0
ペナルティゴール			4.1		6.5		5.4		3.5		3.6
コンバージョン成功率			78%		73%		76%		57%		73%
ペナルティゴール成功率			53%		64%		71%		55%		78%

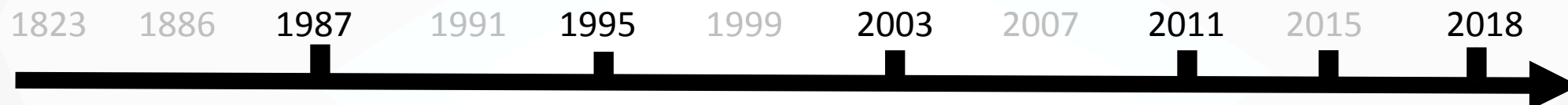




パス、ラック／モール & キック



パス



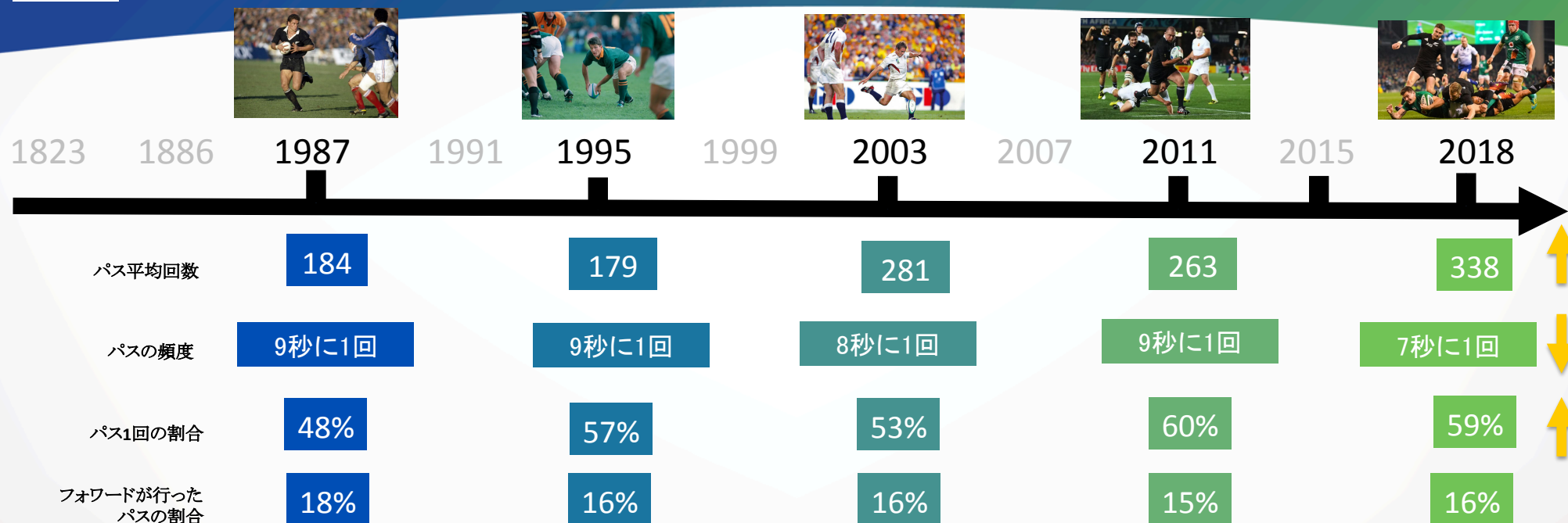
1987年～2018年のあいだにパスの回数は約2倍になっているが
下記2点はその誘因となっている:

1. ボールインプレーの時間が長くなった
2. ボールインプレー時のパスの頻度が増えた(7秒に1回)

フォワード、スクラムハーフおよびバックスによるパスの割合には
変化がみられなかった。

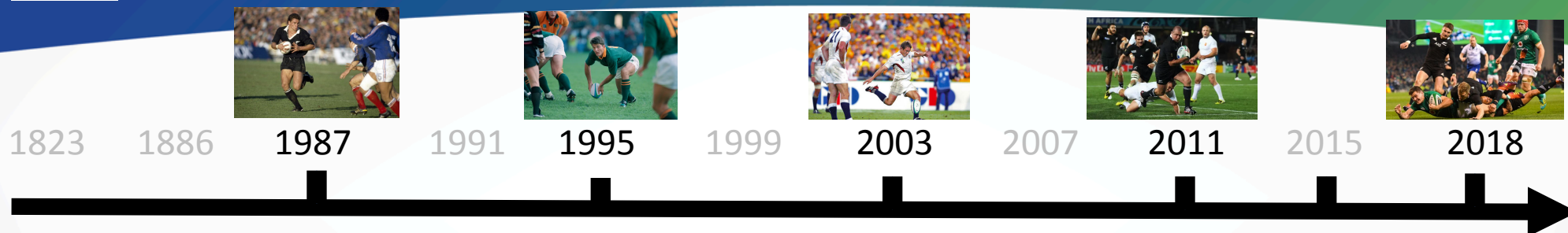


パス





ラック／モール



2018年の一試合におけるラックの回数は1987年に比べ5倍、2011年に比べ21%、増加している。これは下記2点の変化が誘因となっている:

1. ボールインプレーの時間が長くなった
2. ボールインプレー時のラックの頻度が増えた(11秒に1回)

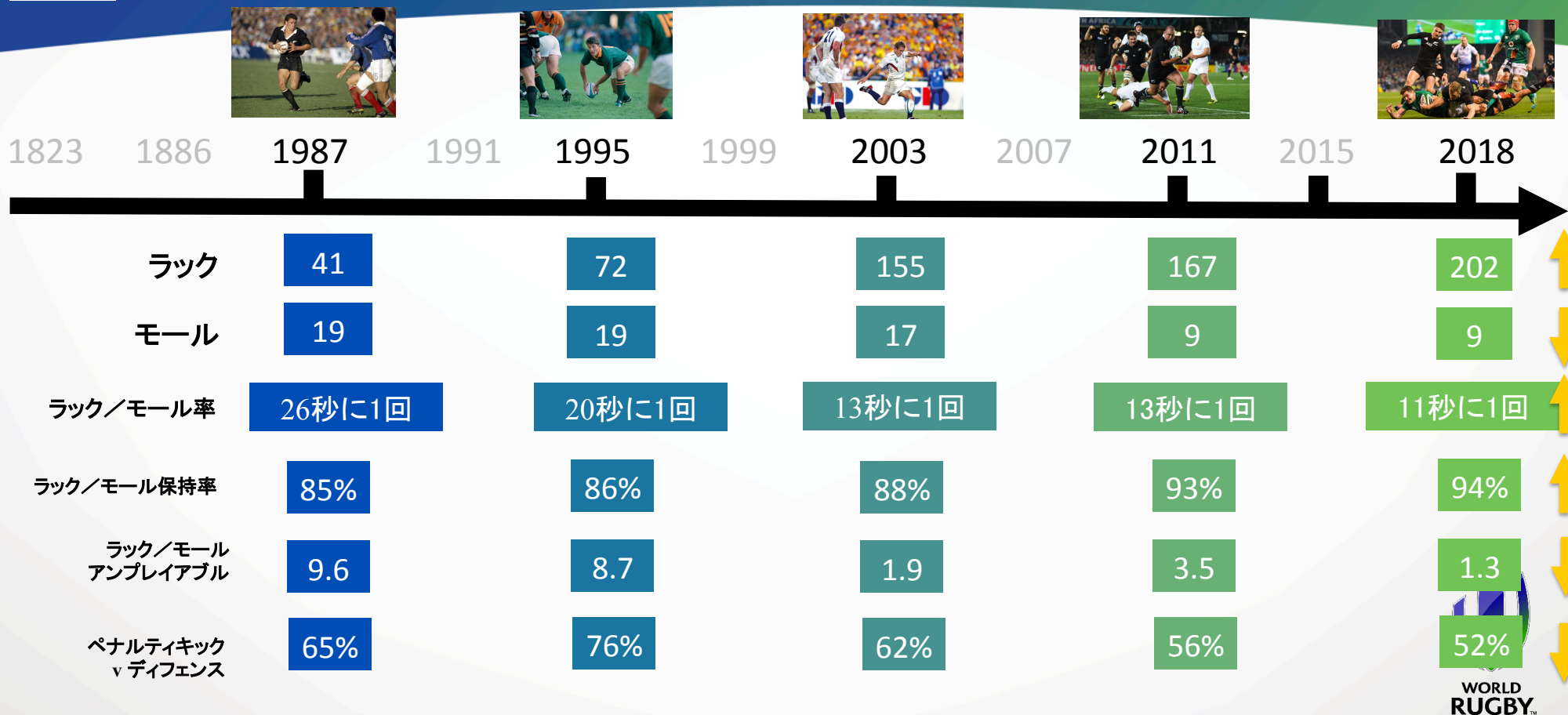
モールの回数は半減し、現在の平均は1試合に9回

保持率は最高(94%)となり、アンプレアブルの頻度は大幅に減った。





ラック／モール





キック



1823 1886 1987 1991 1995 1999 2003 2007 2011 2015 2018

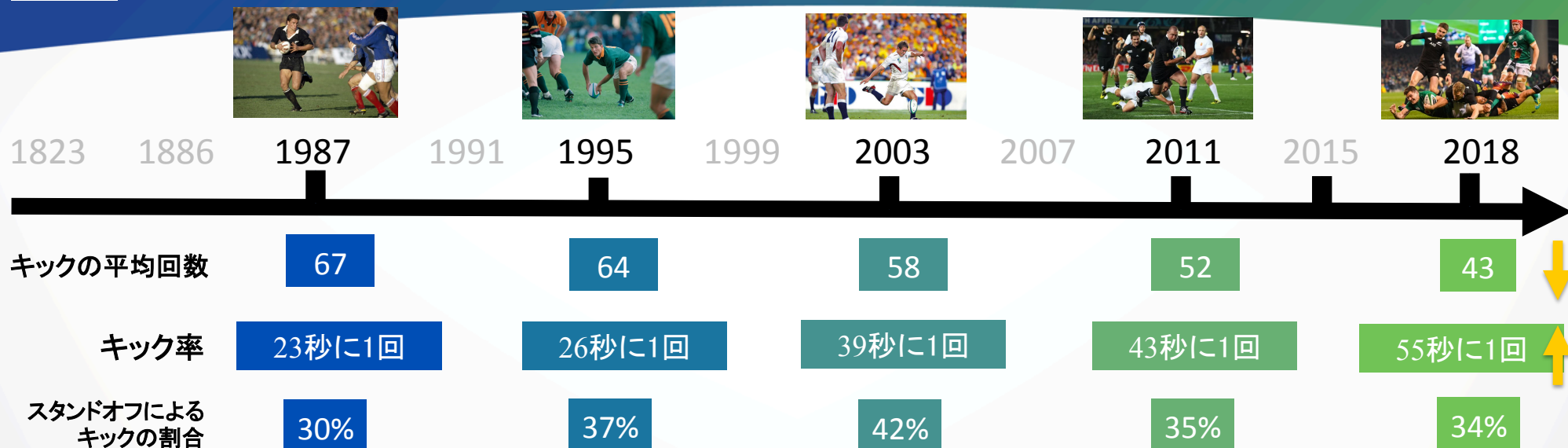
キックは月日を経つにつれ徐々に減少し、現在の回数は最低となっている。

30年前は23秒に1回キックが行われていたが、現在は55秒に1回となっている。





キック





スクラム



スクラム



ここ数十年間でスクラムの数が劇的に減少したが、以下の状況となっている。

- コラプシングの回数が増加
- スクラムに関するペナルティの数が増加
- スクラムにかかる時間が大幅に長くなった – 現在の平均は63秒

スクラムはしばしば、プレーを再開させるためのものというより、ペナルティを獲得する方法だと捉えられているようである。



スクラム



	1823	1886	1987	1991	1995	1999	2003	2007	2011	2015	2018	
スクラム			32		24		21		16		14	↓
リセット率			17		39		30		27		35	
コラプシング率			15		22		27		48		57	↑
ボールアウト率			91		92		85		69		76	↓
保持率			90%		96%		95%		90%		93%	
スクラムにかかる時間			25s		30s		31s		53s		68s	↑
PK v ディフェンス			50%		85%		85%		76%		73%	

RUGBY™

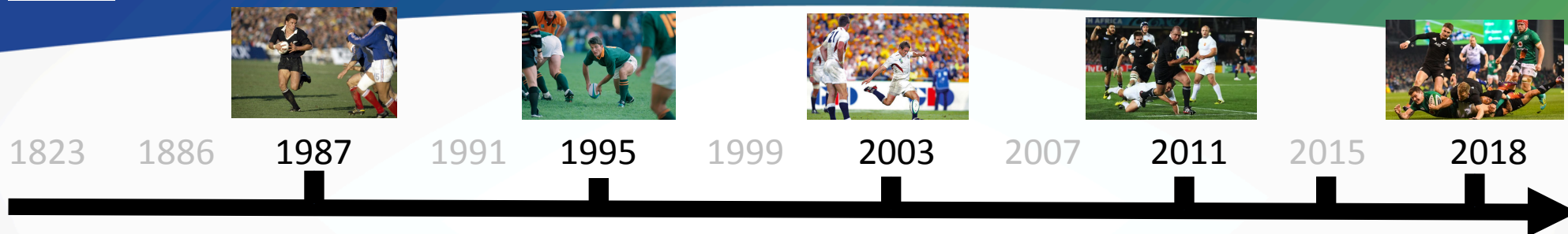


WORLD
RUGBY™

ラインアウト



ラインアウト



ラインアウトの回数は、1987年に比べて顕著に減少している。
30年間で数値をとった過去すべてのRWCで段階的に減少している。

ラインアウトが行われる回数が減少したため、
保持率が高くなり、ペナルティの数が減少した。



ラインアウト



	1823	1886	1987	1991	1995	1999	2003	2007	2011	2015	2018
ラインアウト			49		38		38		27		24
クイックスロー			0.8		0.8		1.1		1.3		1.1
ラインアウト>モール率			26%		33%		42%		34%		43%
保持率			63%		71%		83%		86%		84%
Contested			94%		85%		36%		63%		54%
ペナルティキック率			15回に1回		11回に1回		65回に1回		73回に1回		32回に1回

WORLD
RUGBY™



制裁



制裁



制裁の件数は、対象期限の中ではさほど変化がない。

現在制裁罰が与えられている分野が、ラグビーの競技の形を反映している。

現在はラックの回数がずっと増えたため、
この分野でペナルティが与えられる割合も高くなっている。
ラグビーがプロ化する前はスクラムが多かった事実があるにもかかわらず、
ペナルティの割合は低かった。





制裁措置



	1823	1886	1987	1991	1995	1999	2003	2007	2011	2015	2018
ペナルティ			22		20		21		17		18
フリーキック			1		3		2		1		1
ラックでのPKの割合			18%		29%		46%		45%		51%
スクラムでのPK/FKの割合			6%		7%		13%		27%		18%
不正なプレーでのPKの割合			18%		13%		11%		4%		9%
オフサイドでのPKの割合			30%		22%		18%		11%		10%
イエローカード			n/a		n/a		2.4試合に1回		11試合に1回		3.2試合に1回

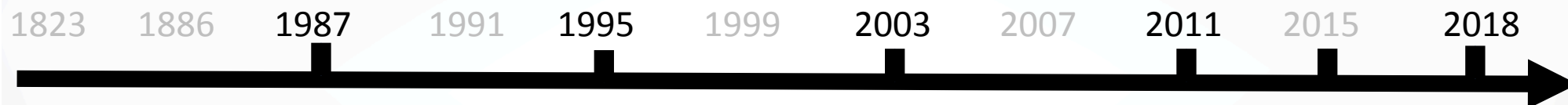


WORLD
RUGBY™

TMO



TMO



**TMO は2003年に導入され、
2013年にはトライの前の段階や不正なプレーも対象に含まれた。**

**これにより、トライのTMO判定件数は2倍となり、判定にかかる時間も増えた。
不正なプレーの判定は、トライの判定よりも時間が短い。**





TMO



	1823	1886	1987	1991	1995	1999	2003	2007	2011	2015	2018
トライのTMO			n/a		n/a		0.5		0.5		1.0
かかった時間			n/a		n/a		74秒		70秒		90秒
不正なプレーのTMO			n/a		n/a		n/a		n/a		0.3
かかった時間			n/a		n/a		n/a		n/a		70秒
TMO 判定			n/a		n/a		0.5		0.5		1.3
かかった時間			n/a		n/a		74秒		70秒		86秒



WORLD
RUGBY™

交替／入替



交替／入替え



1823 1886 1987 1991 1995 1999 2003 2007 2011 2015 2018

ほとんどの場合、交替要員全員が使われ、
70%以上が55～80分の間にピッチに出ている。

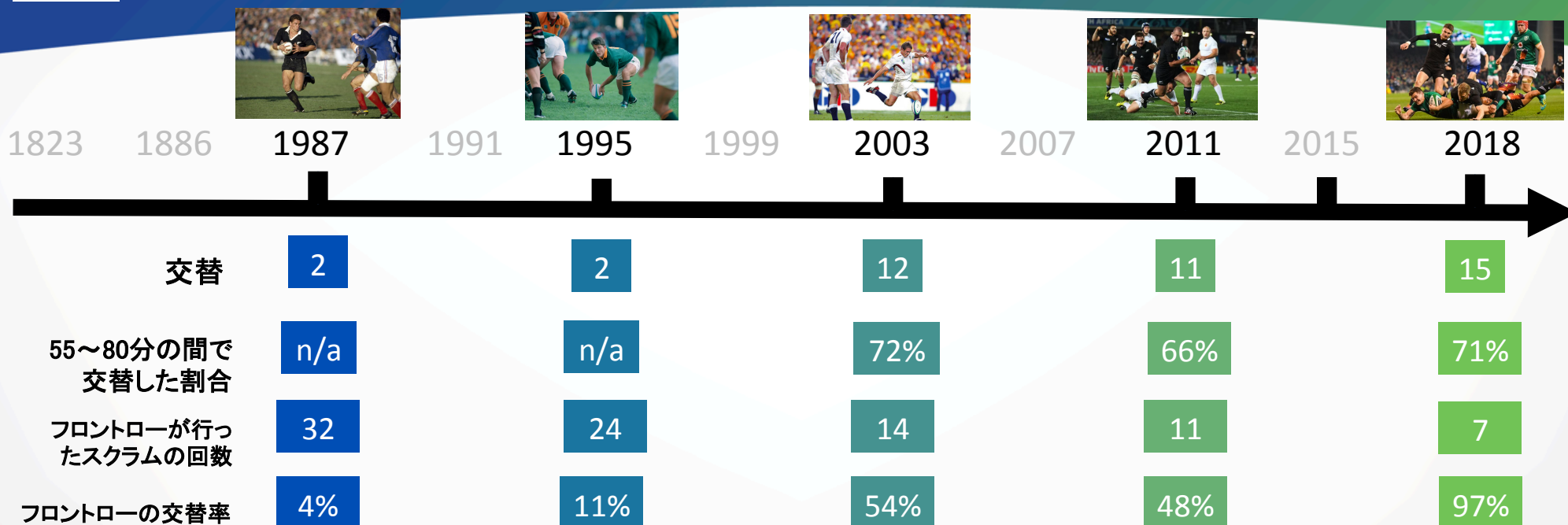
交替によって、フロントロープレーヤー達は、
1987年は1試合平均30回スクラムを組んでいたが、
現在は1試合平均7回である。

フロントロープレーヤーは全員、95%の割合で交替し、
フロントロープレーヤーの20人に1人だけが80分間プレーしている。





入替／交替



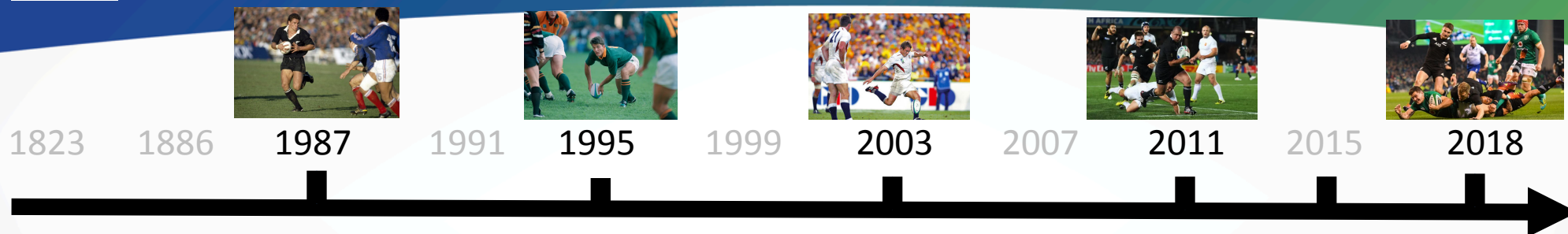


WORLD
RUGBY™

プレイヤーの体格



プレイヤーの体格



ラグビーワールドカップ期間中、
プレイヤーの体重は約12kg増加した。

フォワードの現在の平均体重は 115kg
フォワードの交替要員の現在の平均体重も115kg

バックスの現在の平均体重は93kg
110kgを超えるバックスはあまり見られない。





プレイヤーの体格

	1823	1886		1991		1999		2007		2015	
			1987		1995		2003		2011		2018
チーム			93kg		100kg		104kg		103kg		104kg
フォワード			104kg		109kg		113kg		111kg		115kg
バックス			80kg		89kg		93kg		92kg		93kg
フォワード交 替要員			n/a		n/a		111kg		114kg		113kg



WORLD
RUGBY™

ラグビー憲章

ラグビー憲章

1995年 IRBがアマチュアリズムを撤廃

1997年 ラグビー憲章を策定

プロ化後もラグビーがそのユニークな特徴をフィールドの内と外の両方で維持することを確実なものにする為に、世界中のラグビーユニオンの合意のもと作成されたラグビーのチェックリスト。

ラグビーのゲーム（競技規則の変更等）について話し合う際は、その内容はラグビー憲章を踏まえたものでなければならない。



ラグビー憲章

「Principles of the Game」(ゲームの原則)

行動……誠実さとフェアプレー

精神……規律、自制、相互の信頼(関係者全て)

目的……競技規則、スポーツ精神、および、フェアプレーに則り、相手チーム
に対してできる限り多くの得点を挙げること

ボールの争奪と継続

ボール獲得のための争奪は、ラグビーの重要な特徴の一つである。一方のチームがボールの保持の継続を維持しようとし、相手側のチームはボールを争奪しようとする。このことがプレーの継続とボールの保持の継続の必要不可欠なバランスをもたらす。



ラグビー憲章

「Principles of the Laws」(競技規則の原則)

すべての人にとってのスポーツ……多様性

独自性の維持……セットプレーなど

喜びと楽しみ……プレーヤーが安全に楽しめる/見ても楽しめる

適用

プレーヤーには、競技規則を遵守し、フェアプレーの原則を尊重するという最優先の責務がある。

マッチオフィシャルは、公平性、一貫性、細やかな感性、そして、必要に応じて管理能力が必要である。





まとめ

ワーク

ラグビー競技は、プレーが止まらない時間が長くなり、現在の競技の形は以下のことを発生させている。また15人の競技から23人の競技へ変化した。

- ・スペースの欠如
- ・争奪の欠如
- ・スクラムの重要性の増加
- ・遅延の増加(TMOやスクラムの組み直しによる影響)
- ・プレーヤーの肉体的に負荷(コンタクトの機会の増加)が高くなっている
(ラックの増加、インプレーの増加による影響)
- ・プレーヤーをいかに回復させるかが重要となっている
(コンタクトプレーの増加、試合数の増加)
- ・選手交代が行われるので80分間試合をする機会は減少している

皆さんへの問いかけ

ラグビー憲章を踏まえて、現在のラグビー競技の課題を解決する為に競技規則をどのように変更すれば、より良くラグビーが発展すると思うか考えてみましょう。



(資料問い合わせ先: JRFUコーチング部門/川合レオ)